

古文 品詞分解（動詞・助動詞） 「沙石集」三文にして齒二つ」問題

南都に、齒^①取る唐人^②あり^③アキ。ある在家人の慳貪にして、利養を先と^④し、ことに^⑤触れて
商ひ心のみ^⑥ありて、徳も^⑦あり^⑧イけるが、虫の^⑨食ひ^⑩たる齒を^⑪取ら^⑫エせ^⑬オむとて、唐人がもと
に^⑭行^⑮カぬ。齒一つ^⑯取るには、錢二文に^⑰定め^⑱キたるを、「一文にて^⑲取^⑳リて^㉑たべ。」と^㉒言ふ。

少分のこと^㉓クなれば、ただも^㉔取^㉕ケべけれども、心ざまの憎さに、「ふつと一文にては

^㉖取^㉗ラ^㉘コじ。」と^㉙言ふ。やや久しく^㉚論^㉛ずるほどに、おほかた^㉜取^㉝ラ^㉞ざり^㉟シければ、「さらば、

三文にて齒二つ^㊱取^㊲リ^㊳たまへ。」とて、虫も^㊴食^㊵ハセぬに、よき齒を^㊶取^㊷リ添へて二つ^㊸取^㊹ラ

ンせて、三文^㊺取^㊻ラセ^㊼タつ。心には利分とこそ^㊽思^㊾ヒ^㊿けめども、疵なき齒を[㋀]失[㋁]ヒ[㋂]ぬる、

大きなる損[㋃]ナリ。これは、[㋄]申[㋅]スに[㋆]及[㋇]バ[㋈]トず、大きにおろかなること、をこがましき

わ[㋉]ざ[㋊]ナ[㋋]ナリ。

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「沙石集」三文にして齒二つ」 解答

南都に、齒^①取る唐人^②ありアき。ある在家人の慳貪にして、利養を先と^③し、ことに^④触れて

ラ四用

ラ変用 過去

サ変用

ラ下二用

ラ変用

ラ変用 過去

ハ四用 存続

ラ四用 使役 意志

商ひ心のみ^⑤ありて、徳も^⑥ありイけるが、虫の^⑦食ひ^⑧たる齒を^⑨取らエセオむとて、唐人がもと

カ四用 完了

ラ四用

マ下二用 存続

ラ四用

バ四命

ハ四終

に^⑩行き^⑪カぬ。齒一つ^⑫取るには、錢二文に^⑬定め^⑭きたるを、「一文にて^⑮取り^⑯て^⑰たべ。」と^⑱言ふ。

断定

ラ四終 可能

少分のことクなれば、ただも^⑲取る^⑳ケべけれども、心ざまの憎さに、「ふつと一文にては

ラ四用 打消意志

ハ四終

サ変用

ラ四用 打消 過去

取ら^㉑コじ。」と^㉒言ふ。やや久しく^㉓論ずる^㉔ほどに、おほかた^㉕取ら^㉖ざり^㉗シければ、「さらば、

ラ四用

ハ四命

ハ四用 打消

ハ下二用

ラ四用

三文にて齒二つ^㉘取り^㉙スたまへ。」とて、虫も^㉚食は^㉛セぬに、よき齒を^㉜取り添へて二つ^㉝取ら

使役

サ下二用 完了

ンせて、三文^㉞取らせ^㉟タつ。心には利分とこそ^㊱思ひ^㊲けめども、疵なき齒を^㊳失ひ^㊴ッぬる、

断定

サ四用

バ四用 打消

大きな損^㊵なり。これは、^㊶申すに^㊷及ば^㊸トず、大きにおろかなること、をこがましき

断定

わざナなり。